

境界知能について

(令和6年2月27日質疑)

平野達司 知的障害ではないが、知的指数が一般より低い、IQが70以上85未満の方で、統計上全体の14%占める。境界知能に該当する方は、知的障害とはみなされず、周囲からも気づかれにくく、やる気がない、さぼっているなど見られてつらい思いをされてる。境界知能について、情報収集・支援を行う必要があるのでは？

こども家庭局 丸山副局長 療育手帳の取得や知的障害と診断されたことで受けられるサービスがある一方、手帳や診断がなくても発達にしんどさを抱えて支援を必要としているお子様や保護者に対し、個々の相談内容に応じた支援を行っている。専門的な支援が必要な場合、こども家庭センターなどの専門機関に繋ぎ、18歳までの子供さんを対象に、障害の有無にかかわらず、保護者からの相談を受け、個々の子供さんの特性に合った対応方法などの助言を実施している。境界知能に関する子供さんや保護者の理解を、さらに深め、引き続き寄り添った支援を行っていく。

乳幼児の英語に触れる機会の創出について

(令和6年2月27日質疑)

平野達司 神戸市はいち早くALTを187名、全小・中学校に配置し、英語教育に力を入れている。当然、母国語も重要であるが、英語は様々な場面で必要であり、幼少期から英語に触れ、聞きなれることにより、将来、早い習得につながるのではないかと。兵庫区でも、英語を取り入れた音楽・遊びのプログラムを地域のネイティブレベルの英語力を持つ地元の保護者が実際に提供している例もある。その方にもプログラムの担い手として活動してもらえれば、児童館における取組も更に進み、保護者も集まりやすくなり、コミュニティーも増えるのではないかと。

こども家庭局 中山局長 児童館で、英語学習をはじめ、地域の人材の英語協力のプログラムの充実を図るのは、児童館の魅力の向上につながる。既に外国語に触れる活動などを地域人材また高校生の協力を得てやっているが、さらに地域ごとの、地域の児童館の特色を生かした取組をさらに伸ばしていくためのインセンティブを、6年度から設定予定。国際的な感覚を育む体験、英語学習のプログラム、地域人材を活用した子育て支援、保護者同士のつながりの場なども加算メニューとしている。インセンティブを活用した英語学習、地域人材の活用は、児童館の運営支援を目的に各区に配置している子育てコーディネーターが、児童館と地域を結びつける役割を担うことができる。その様な取組事例を共有することで、取組が更に進むように促していく。

令和6年度から始まります

- 兵庫区の子育て含めたイベントについて“ためマップ”アプリが始まります。わかりやすく情報入手ができます！
- 育児用品配送のこべっこウェルカム定期便が始まります！
(お子さんが生まれた世帯を対象に新たに月1回おむつやミルク等の育児用品を配達し、配達に合わせて声掛けや支援情報の提供等を含めた見守りが令和6年秋以降に計10回配達が始まります！)
- 神戸市民の神戸市内に通う高校生通学定期が今年9月より定期券全額補助！
- 中小中堅企業の住宅手当等補助金を新設！

その他神戸市に継続要望

- 子供の居場所づくりに実施頻度に応じた支援策の検討を！
- 兵庫区に病児保育の設置を！

神戸市議員平野達司(たつじ)事務所
神戸市兵庫区東山町2丁目8-61マルシン市場2F
TEL:078-531-8780 FAX:078-531-5301
メールアドレス:th.tatsuji.hirano@gmail.com



平野たつじ HP

神戸市会の本議会、委員会を
インターネットにて
閲覧できます。



神戸市会